

教 師 ノ ー ト

日付	2015年 2月 1日
単元	サムエル記・1
テーマ	神に心を向ける
タイトル	サムエル
テキスト	第一サムエル1-3章
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 第一サムエル3:9
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	

□導入

今日から、サムエル記のメッセージです。おもな登場人物はみんなもよく知っているダビデさんです。でもその前に、「サムエル記」というくらいですから、サムエルさんのお話をしましょう。サムエルさんは、みなさんと同じくらいの歳のときに、神さまのことばを聞いたんですよ。そして、預言者として神さまに用いられました。

□ポイント1 ハンナはサムエルを生みました(1章)

シロという町の神殿で、ハンナという女の人が熱心にお祈りしていました。ハンナはエルカナという人と結婚していましたが、まだ子どもがいませんでした。ハンナはそのことをとても悲しんでいたのです。ハンナは「もし神さまが、男の子を授けてくださいますなら、私はその子の一生を主にささげます」と祈りました。

神殿の祭司エリは、ハンナがあまりにも熱心に祈っているのを見て、酒に酔っているのではないかと思いました。ハンナは、「酔っているわけではありません。私は主の前に、私の心を注ぎ出していたのです」と言いました。エリは、ハンナが真剣に祈っていたことを知って、「安心して行きなさい。神さまが、あなたの願いをかなえてくださるように」と言いました。ハンナの顔は、平和と喜びの表情に変わっていました。ハンナはやがて男の子を生みました。名前をサムエルとつけました。

☞「かみそりを当てません」・・・その子を神にささげるものとして聖別しますという意味。

□ポイント2 サムエルは成長しました(2章)

神さまは、ハンナの願いをきいて、男の子を与えてくださいました。ハンナもまた、神さまに約束したことを守って、サムエルを神さまにささげることにしました。ハンナは、サムエルを祭司エリにあずけました。サムエルが3歳くらいのときでした。こうしてサムエルは、幼いときから両親のもとを離れ、神殿に住みました。祭司エリのもとで、神さまのご用を手伝いながら成長したのです。

一方、一緒に暮らすエリの子どもたちは、神さまに背く者たちでした。彼らの「罪は、主の前で非常に大きかった」とあります。彼らは、神さまにささげ物をしようとする民を脅して、肉を取り上げてしまうような人たちだったのです。

☞エポデ・・・祭司が祭儀のときに着る「栄光と美を表わす聖なる装束」(出エジプト 28:2)。金・青・紫・緋色のより糸で織った亜麻布で作られた。金の環で「さばきの胸当て」が結びつけられていた。

□ポイント3 サムエルは神さまの声を聞きました(3章)

(何年か経って)ある夜、いつものようにサムエルが神殿で眠っていたときのことで。サムエルは、「サムエル、サムエル」と自分をお呼ぶ声を聞きました。サムエルは、エリが寝ている部屋へ走って行って「はい、ここにおります、私をお呼びになりましたか」と言いました。ところがエリは、「いや、私は呼んでい

ないよ。帰っておやすみ」と言いました。そこでサムエルは、寝床に戻り、横になりました。すると、また「サムエル、サムエル」と呼ぶ声が聞こえたので、走っていき、「はい、エリ先生。お呼びになったので来ました」と言いました。しかし、またエリは「いや、私は呼んでいないよ。帰っておやすみ」と言いました。そこでサムエルが戻って寝ると、また同じことが起こりました。エリのところへ行って「はい、ここにおります、私をお呼びになりましたか」と言いました。もう3回目です。すると、とうとうエリは、サムエルを呼んでいたのは神さまだ、ということがわかりました。エリは、サムエルに言いました。「戻って寝なさい。そして今度呼ばれたら、『主よ。お話してください。しもべは聞いております。』と神さまに申し上げなさい。」4度めに声を聞いたとき、サムエルは、エリに言われたとおりに答えました。すると神さまは、サムエルに語られました。それは「息子たちが神さまに罪を犯しているのに、エリはそれを放っておいたので、神さまが罰を与える」ということでした。

朝になったとき、サムエルは、神さまのことばをエリに伝えるのが怖くなりました。しかしエリは「神さまがお告げになったことを隠さず全部教えておくれ」と言いました。それでサムエルは、すべてのことを話しました。エリはそのことばを受け入れ「その方は主だ。主がみこころにかなうことをなさいますように」と言いました。こうしてサムエルは、神さまから声を聞き、それを人々に告げる「預言者」になったのです。

□結論 サムエルは、子どものときから神さまの声を聞き、仕えました

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

みなさんは、神さまの声を聞けると信じますか？

イスラエル人は、その昔はモーセなどを通して神さまの声をきいていました。しかし、「そのころ、主のことばはまれにしかなく、幻も示されなかった」とあるように、サムエルの時代には、神さまの預言をする人はほとんどありませんでした。そんなとき、特別に神さまの声を聞いたのは「少年」だったサムエルです。みなさんも、サムエルのように、小学生のうちから教会で育ったことは幸せです。ただ教会に来ているだけでなく、神さまに心を向けて、神さまのことばを大切にしましょう。

神さまに心を向けていれば、ディボーション・お祈り・礼拝メッセージだけでなく、お父さん・お母さん・先生や大自然を通して、神さまの声を聞くことができます。サムエルやエリやハンナのように神さまにいつも心を向けていましょう。神さまに、心を注いで祈った後の、ハンナの顔は以前とは違いました。サムエルとエリが、神さまに心を向けるまで、神さまは語られませんでした。「しもべは聞いています」という姿勢の人に、神さまは語ってくださるのです。

逆にエリの子どもたちは神さまに心を向けない人でした。みなさんも、親が神さまを信じていても、いなくても、自分自身で神さまを信じて仕えていくことが大切です。また、サムエルは、そんなエリの子どもたちと一緒に育ちましたが、神さまに仕え続けました。人に影響されず、自分の心を神さまに向けて、仕えていくことから、ブレないようにしましょう。

神さまのことばを、恐れず伝える人になりましょう！

サムエルは、神さまの声を聞いただけでなく、伝える人になりました。先生であるエリに神さまの罰のことを伝えるのは怖かったはずですが、でも、サムエルは勇気をもって伝えました。みなさんも、神さまのみことばを恐れず勇気をもって伝えられる人になりましょう。